

バイオマス系廃棄物の現状把握と取組案の提示状況の概要

1 バイオマス系廃棄物の種類と現状把握

種 類	年間発生量(t)	地 域	現状の利用	現状の特徴・課題
食品廃棄物 (動植物性残さ)	31,524	四日市、伊勢志摩、 松阪紀勢、津	堆肥化・飼料 化	<ul style="list-style-type: none"> ・委託処理が一般的 ・堆肥化・飼料化での利用が主 ・腐敗や異物混入等の品質管理が重要 ・包装容器との分離が課題 ・県外での処理が多い ⇒課題1 食品廃棄物の地域内循環の拡大
木質系バイオマ ス(製材廃材)	126,008 (うち多量排出事 業者分は 9,890t)	松阪紀勢	燃料・未利用	<ul style="list-style-type: none"> ・中小の製材所からの排出が多い ・収集コストが大きい ・燃料としての利用が主 ・特にバーク(樹皮)やおが屑が未利用 ⇒課題2 バーク等の廃材価値の向上
家畜糞尿	1,048,807	肉牛: 松阪紀勢 乳牛: 熊野 豚: 伊勢志摩、伊賀 鶏: 鈴鹿亀山、伊賀	堆肥化	<ul style="list-style-type: none"> ・飼育農家による自家処理が一般的 ・家畜糞尿由来の堆肥の供給過剰 ・農地への過剰投入による水環境汚染 ・農地の窒素過多 ⇒課題3 家畜糞尿の利用形態の多様化

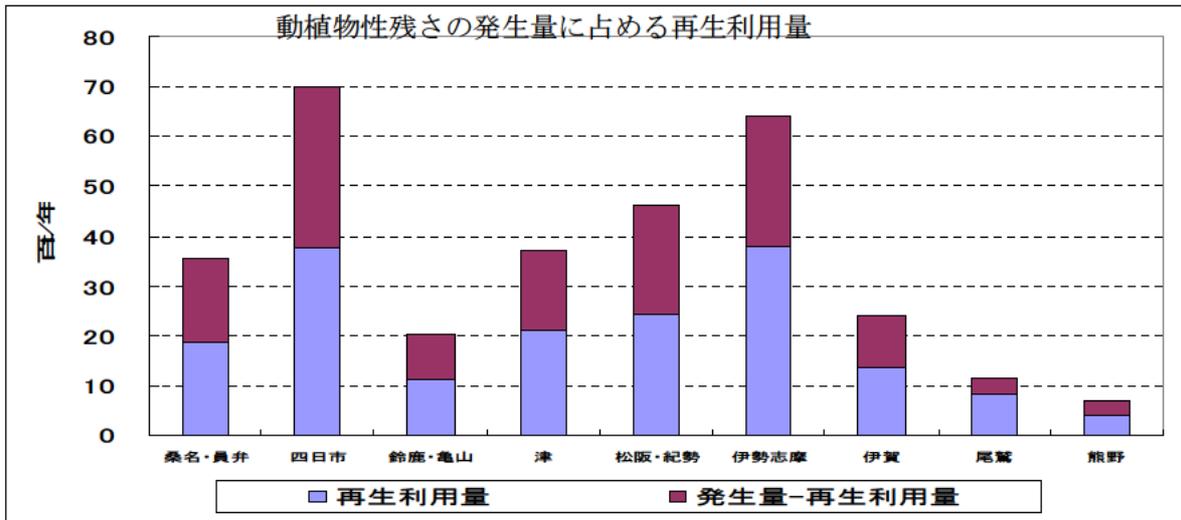
2 取組モデル案検討の方向性

- ・ 県外への委託処理費用を軽減するため、県内で資源が循環する仕組みを構築する
- ・ 多様な主体が関連し合うことで、持続可能なモデルを構築する
- ・ 県内の地域特性を踏まえた、実現可能なモデルを提案する
- ・ 県内で意欲的な自治体や事業者を積極的に取り込む
- ・ 研究機関等と連携した最新技術の活用を検討する ⇒ 課題4 最新技術の活用・普及

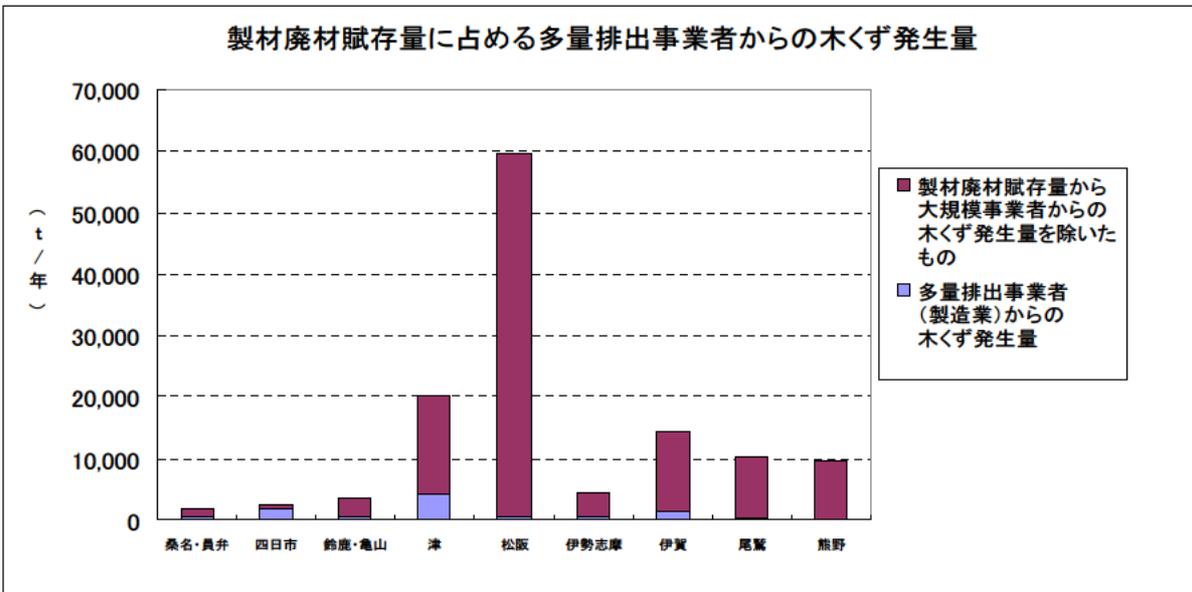
3 取組モデル案の提示

課題	取組案	変換・利用	検討エリア
1. 食品廃棄物の地域内循環の拡大	①産学連携による食品廃棄物利用システム	RPF化・ボイラー燃料	津地域
	②地域活性化を目指した観光地での食品廃棄物利用	メタン発酵・発電	伊勢・志摩地域
2. バーク等処理負担の大きな廃材価値の向上	③工業団地における地域内循環型バイオマス利用	ボイラー燃焼・発電	松坂・紀勢地域
3. 家畜ふん尿の利用形態の多様化	④農業廃棄物・家畜ふん尿の利用システムの確立	メタン発酵・発電	熊野地域
4. 最新技術の活用・普及	⑤先進技術を活用した地域供給型熱利用	焼却施設の排熱の地域供給	伊賀地域

【 動植物性残さ発生量 】



【 製材廃材発生量 】



【 家畜糞尿発生量 】

